

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を作っている。理念は、①ゆっくり楽しくよりそって暮らせる家を目指します。②ご利用者様、ご家族様、地域の人々、私達スタッフの幸せを目指します。③自分でやれる喜びと達成感のある暮らしを目指します、の3つであり、運営規定と契約書、重要事項説明書に掲載させていただいている。	○ 今後、パンフレットや広報誌にも掲載していくことを考えている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに飾ったり、ネームプレートに入れたりして、どのスタッフも共有し実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はリビングに飾り、どなたでも閲覧できるようにしている。	○ 広報誌に掲載する。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くに散歩に出かけたり、町の行事に参加したりして顔なじみになって下さった方などから挨拶をしてくださったり、畑でとれた野菜などを持ってきてくださったりしていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の行事(溝掃除、草刈り、防災フェア、お祭り)には参加させていただいている。地域の一員として認めていただけるように努力している。今年は、近くの老人施設、豊和園さんの夏祭りのご利用者様、スタッフが参加させていただき楽しく過ごさせていただいた。	○ 地域の運動会には参加してみたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所は常時、開放しており介護や認知症に関する相談にはいつでも対応できるようにしている。</p>	○	<p>ふれあいサロンの開放(サークルの寄り合いなどに使用していただく)ことや「認知症あんしんサポーターリーダー」を養成し、地域に認知症に関する啓蒙活動をしたいと考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>改善できるように努力している。今年もグループホームに関わるスタッフと共に自己評価を行なっている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域運営推進会議は2ヶ月に1回、開催している。グループホームでのご様子、行事なども報告している。会議から出たご意見は、グループホームで活かすよう努力している。そのご意見をもとに、去年12月暮れグループホームでご利用者様、ご家族様、スタッフが集まり大掃除、忘年会を開くことができた。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>長寿すこやかセンター、区社協の協力でご家族様、地域の方、民生委員さん、包括支援の方、スタッフが集まり、「認知症あんしんサポーター講座」を開催することができた。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、学ぶ機会はあるものの、実際、対象となるかたがおられない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に関しては、勉強会などで学ぶ機会を持っている。管理者を中心に虐待などがないか注意を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり、解除する際には事務長や管理者より、ご利用者様やご家族様が納得されるまで十分なお説明をさせていただき、時には退去でご本人様のグループホームでの様子など必要な場合には、情報を提供させていただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様の苦情に関しては、真摯に受け止め、まず謝罪し、スタッフが聞くことにしている。些細な不満に対しても、ご利用者様1人ひとりに合わせて対応している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>季節ごとに「グループホームでのご様子」として家族様にお手紙をお出ししている。また、面会に来られた時や電話での報告も随時行なっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が来られた際、積極的にお話をするようにしている。苦情など申し出があれば真摯に受け止め、謝罪し、運営に反映するようにしている。苦情内容などは苦情ノートに書き込みスタッフが閲覧できるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、事業所カンファレンスを開催し、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。それ以外にも管理者は、日常よりスタッフの意見を聞く努力を行なっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>病院受診、町の行事、レクリエーションなど前もって計画されていることがあれば勤務作成時調整を行なっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者と管理者、事務長は日常的に情報交換を行い、ご利用者様の混乱などを防ぐため異動や退職を最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員の能力向上のため研修を積極的に勧めている。運営者が自らスタッフに対して積極的に研修も行なっている。外部研修も積極的に参加して、事業所の全体カンファレンスで報告できる範囲内で伝達講習を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>事業所内での交流会や時間外での話し合いなども必要と考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修、他研修に参加し、その都度交流の機会を持つようしている。また、当事業所のサービス向上のため、近くの老人施設、豊和園の夏祭りに参加させていただき、取り組みなどを勉強させていただいている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者、自らが事業所に来られ、スタッフに話しかけ相談、指導を行なっている。法人内の職員旅行、春の宴、夏のビアガーデン、ボーリング大会、忘年会などにも参加ができ、ストレス軽減に工夫がなされている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者、自ら事業所に来られ、仕事に関する相談や指導をされている。意見を聞いていただけることで心の支えとなり、日々のサービスの向上につながっている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接に来ていただいた際には、じっくりご本人とお話できる時間をもうけている。その中で、ご利用者が求めておられることなど傾聴、受容し、最大限に聞き出す努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接や電話などでご家族様が考えておられること、求めておられることなど傾聴、受容し、最大限に聞き出す努力をし、不安解消に努めている。入居前家庭訪問は現在、行っていない。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が求めていることへの支援は、相談を受けた時から行なう努力はしている。グループホームではなく、他のサービス利用でご本人様、ご家族様が安心されることがあれば検討していく場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時に、ご本人様、ご家族様に他利用者様やスタッフと過ごしていただく時間を必ずもうけている。グループホームの雰囲気、様子を感じ取っていただいている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様が得意とされていること(料理作り、裁縫、畑仕事、昔の遊びなど)は、スタッフに教えていただいたりして楽しく、喜びを共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にホームに足を運んでいただき一緒に過ごしていただいたり、家族交流会などにも参加していただいたりしてご本人、ご家族、スタッフが共に楽しんで生活できる支援を心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の過去の出来事や背景をスタッフは理解に努め、グループホームでの今の生活を楽しく、不安なく過ごしていただくよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が馴染みある方(ご家族様やご友人など)との外泊や外出(自宅に帰ること、外出に出かける、ドライブにでかける、散歩にでかけるなど)には、積極的に支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループホームでご利用者様ができる活動(体操をする、お茶を汲んでもらう、洗濯物をたたんで貰うなど)の際、場面を通して、助け合いやふれあいが生まれ、ご利用者様同士、良い関係が築けるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたご利用者様に関しては、その後のご様子など分からないことが多い。ご家族様のお電話やホームにいられて、ご様子を知ることが多い。	○	関係を断ち切るという気持ちはないが、ホームからお話を伺うことはできていない。電話やお手紙でご様子を伺うことも必要だと感じている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望は、ご本人に尋ねたり、ご家族様にお尋ねしたりして思いが叶うよう努力している。気の毒な思いや大変やという思いがご本人やご家族様にみられ、思いや希望にそった支援にはまだまだ程遠いと感じられる。思いや希望を叶えることは大変すばらしいことと考える。	○	もっと身近なところ(食べたいもの、着たい服、見たいテレビ番組、聴きたい音楽など)で尋ねるように努力していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様にお尋ねしたりしている。ご家族様にもお尋ねして、ご本人様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様一人ひとりにあわせた対応(個別ケア)を行なう努力をしている。その中で、スタッフはご利用者様一人ひとりの過ごし方やADLなどの把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケースカンファレンスを行い、ご本人様、ご家族様の意見や思いを大にし、介護計画作成に役立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。ご利用者様の身体的変化などでプランにそぐわなくなってきたら、カンファレンスで討議し、介護計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に対して、日々の介護記録に介護計画に沿った記録もなるべく記入する努力もしている。また、介護計画が日々活かされているかどうかは、ケアプラン実践表を通してスタッフ全員が把握できるようにしている。また、介護計画は、スタッフ全員が閲覧できる場所に置き、随時、必要事項を記入できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の状況等に応じて、定期受診や送迎など必要なときは、スタッフが行うようにするなど柔軟に対応している。また、長期入院など環境の変化等ご利用者に負担になることはできるだけ回避するため、主治医や家族と相談し、出きりだけ早くホームで過ごす事ができるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が楽しく安心して暮らしていけるように、地域資源との協働を図りながら支援に努めている。運営推進会議には民生委員さん、消防訓練には消防署の方々、踊りや演奏には地域のボランティアさんなど協力してくださっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームに入居される以前、在宅で関わっておられたケアマネジャーとご利用者様やご家族様のことについて、相談にのっていただくような関わりあいをもっている。	○	介護相談員の受け入れも市福祉介護担当と話し合いをしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご利用者が直接、地域包括支援センターと協働することは現在のところみられない。ご家族様が地域運営推進会議に出席され地域包括支援センター職員との情報交換をもとに支援につなげていくようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	京都市立京北病院が連携医療機関となっている。歯科は、近くの安井歯科を利用している。また、ご利用者様、ご家族様が希望されている医療機関があれば、ご利用を支援している。	○	京北病院は、内科医がよく変わるため、主治医が決まりにくく納得が得られる医療支援はできていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	ホームでも高齢化、認知症の重度化に伴い、訪問看護の利用が必要なご利用様がでてきている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ご本人様、ご家族様の意向に沿った支援が必要であると考える。もし、ホームでの看取りを希望されるのであれば、見取り出来る環境(往診や訪問看護など医療の連携、ご家族様の協力、ケアスタッフのねばり強さ)を整えることも必要と考える。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアや生活の中でご利用者様のプライドを傷つけないよう十分スタッフは注意をしているものの、実際、言葉かけや対応で不十分な対応をしているところがみられる。(特に、トイレ誘導)	○ もっと、ご利用者様の立場にたった支援ができるように管理者が日々の関わり方を確認し、スタッフに伝えていくことが必要。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様一人ひとりのペースを出来る限り尊重している。朝は、起床がおそい方、ばんを好んで食される方、昼寝をされる方、時代劇が大好きな方、部屋で休まれることが好きな方、ラテンやジャズ音楽が大好きな方などその人らしい生き方、暮らし方ができるように支援している。決して、スタッフ側だけの意見でその人の希望や意見を決定することはないよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには基本的な流れはあるが、ご本人様のペースや体調に沿って1日を過ごしていただいている。ご本人様の気持ちも汲み取ってケアにあたっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者様9人の内8人が女性であり、身だしなみには大変敏感な方もおられる。重度の認知症で身だしなみに興味を示されない方に対してもスタッフ側からアプローチし、少しでもおしゃれに興味をもっていただけるような支援をしている。散髪は近くの美容院をご利用させていただいている。(訪問の散髪もうけてくださる。)時々、エレガンス療法も取り入れ、いつまでも綺麗でいてくださるよう思っている。	○ 認知症が進むと、意欲が低下し、おしゃれに関することなどご本人様は億劫になってこられることは事実である。が、そこをスタッフのアプローチでいつまでも綺麗でいてくださるよう今後も支援を続けていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、料理のお手伝い、あと片付けなどはご利用者様の様子を見て可能であればお願いしている。朝、昼、夕みなで食事をとることを基本にし、楽しく、ゆっくりいただくようにしている。もちろん、ご家族様も一緒に食されることもある。	○ 食事メニューは、スタッフが決定している。ご利用者様に食べたいものを尋ねたり、一人ひとりの好みにあった食事を提供できるようになればベストだが、スタッフの力量が現在のところ限界である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、お酒を飲んだり、たばこを吸われたりされるご利用者様はおられないが、先日、ご利用者様のご家族様から「オロナミンCが好きで、よく飲んでいた。」というお話があった。そのご利用者様にオロナミンCを提供したところ喜んで飲まれるというエピソードがあった。	○ ご利用者様の体調の変化など気かけなければならないこともあるが、その日を楽しんでいただくことを第一に考え支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者様全員、トイレでの排泄を心がけて支援を行なっている。ご利用者様の排泄の訴え、排泄のサインがあれば誘導を行ない、排泄チェック表に記録している。記録をもとに、その方の排泄パターンの把握に努め、排泄の失敗をなくす努力をしている。	○	排泄のパターンを知ることは非常に難しく上手くいっていないのが現状。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、基本的には、お昼から夕方時に入っている。もちろん、ご本人が入りたいと希望されたり、便汚染されたり、汗をよくかいていたりされていたら、なるべく入浴していただいている。入浴は一人ひとりゆっくりできるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人様が安心して場所で休息できるように支援している。ソファで休まれたり、テーブルで伏せ寝される光景もよくみられる。夜も自由に安心できる場所で休んでいただいている。(自室でやすまれる方がほとんど。)入眠時間などを記録し、ご利用者様の生活のサイクルの把握に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食事の準備、買い物などご利用者様に応じて役割が果たされるように支援している。また、好きなことや楽しまれることを把握し、日々楽しく生活していただけるよう支援している。ドライブ、カラオケ、音楽鑑賞など人気がある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金の所持やお金を使うことへの支援はしていない。買い物などでは、スタッフがお金を支払っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人様の気分や天候に応じて(涼しい時間帯で)、近所に散歩にも出かけ、外の新鮮空気を吸っていただき、レフレッシュしていただけるように支援している。時には、買い物やドライブも車で出かけている。車椅子をご利用のご利用者様もホーム内にとどまらず、散歩に出かけたり、買い物に出かけたりもしている。ドライブによく連れて行ってくださるご家族様もおられる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年の春は、お花見(家族交流会)として、美山の黒田ダム方面へ出かけた。年に数回は、普段行けない場所への支援をしていきたいと考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、スタッフと一緒に書き、ご家族様にお出しする支援をしている。ご家族様からもお返事がきたりして、家族の絆が深まっている。電話に関しては、ご本人様が希望される時、スタッフがご家族様におつなぎし、かわるようにしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人様の馴染みの方の訪問は、いつでも都合のいい時間帯に訪ねて来ていただけるように支援している。笑顔や挨拶は忘れないことをモットーとしている。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名、車椅子拘束(T字ベルト)をしているご利用者様がおられる。車椅子からの転落、車椅子ごとの転倒の危険性が高いため、やむを得ず、車椅子拘束を行っている。家族の同意書、日々の記録(何時にT字ベルトをしたか、何時にT字ベルトを外したか、ご本人様の様子など)、身体拘束経過記録(拘束している時間を記入)を行っている。スタッフは、ご利用者様が自由に、そして安全に暮らしていただくため、床(ジュエタンを敷いて)で過ごしていただいたり、ソファーに座っていただくなどの工夫を考え、見守りをして拘束のないケアを目指している。	○ 安全に怪我なく、拘束をしている時間を少なくしていくことを目標にしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、いつも玄関の鍵はかけず様子を見ている。いつでもご利用者様、ご家族様、スタッフ、訪問者が出入り自由な環境としている。もちろん、帰宅要求などで外へ出かけられるご利用者様もおられるが、見守りや連携プレーで対応している。ご近所の方が「外へ出てはりますよ。」と連絡してくださることもある。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士、ご利用者様の行動に対して敏感に反応し、さりげない介護できるように努力している。ご利用者様が混乱され、外へ出られた際には、必ずスタッフが付き添い、トラブルや事故がないように配慮している。その際、スタッフは必ず携帯電話を所持し、すぐに連絡が取れる体制を整えている。また、日中、夜間問わず、スタッフは詰め所にこもることなく、ご利用者様とリビングで過ごしたり、巡視するなどして安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様にとって、危険なものや保管しなければならないものはスタッフが把握し、管理方法を検討している。(薬、ハサミや裁縫箱は詰め所保管、調理用包丁はキッチン引き出しに保管としている。)	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のインシデント(ヒヤリハット)を記録し、職員の共有意識をはかる努力をしている。月1回の事業所カンファレンスでインシデント報告を行い、事故原因の予防対策など話し合いを持つようにしている。	○ 転倒事故がおきているため、転倒防止対策会議を独自に立ち上げる必要あり。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所の勉強会などを通して、周知徹底をはかる努力をしている。	○	年に1回、救急手当や蘇生術の研修が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、町の防災フェアに参加したり、消防署の方の協力を得て緊急避難訓練を行ったりしている。地域の住民の方に来ていただいた際の避難訓練は実施したことがない。	○	地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかける。民生委員さんに声かけしてみる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来る限りご家族様と協力して安心して暮らしていただけるよう支援している。例えば、病院受診は、なるべくご家族様に付き添っていただき、担当Dr.から直接説明をうけ、それをもとにホームでいかにして起こりえるリスクを少なくして安心感のある暮らしができるよう検討している。また、車椅子拘束に関しても、ご家族様が車椅子拘束ベルト着用を希望されていても、拘束における身体的、精神的ダメージや自由な暮らしの大切さを説明し、拘束をしない時間を増やしていく努力を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定を行い、記録し、ご利用者様の体調の変化に気づけるようにしている。状況により、病院受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際、いただいた薬情書をもとに薬の内容が理解できるようにしている。また、保管も行っている。服薬中におけるご利用者様の状態の変化は、日々記録し、病院受診の際、報告を行うようにしている。また、市販の薬に関する専門書をホームで購入し、スタッフの薬に関する知識の見聞を広める努力もしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	こまめな水分補給、ヨーグルトや飲み物(乳酸菌飲料)を摂取していただいたり、体操や散歩を行ったりして便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアをご利用者全員に行っていただくよう努力している。ご自分で磨けない方、義歯を理解されない方、仕上げ磨きが必要な方は、スタッフの介助にて行っている。協力歯科医院(安井歯科)の指導、協力を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を写真にとったり記録したり、食事摂取量も記録を行なっている。同法人の管理栄養士さんに相談し、おおまかなカロリー計算をしていただき、日々の食事提供に関する目安としている。	○	同法人の管理栄養士さんをホームにお招きして、食事に関する専門的なアドバイスをしていただく予定。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生管理・感染症対策マニュアルにそって対応している。外部研修にも参加している。インフルエンザに関しては、ご利用者様、スタッフは予防注射を、ノロウイルス対策として、塩素系の消毒液を使用することとしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	近くの商店やスーパーマーケットに出かけ、常に新鮮な食材を準備している。キッチンには常に清潔を心がけ、調理用具は、煮沸消毒、日光消毒、塩素系消毒を基本とし、衛生管理に努めている。冷蔵庫、冷凍庫の食材の賞味期限などの確認は、頻繁に行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く、車椅子も楽に通れるスペースとなっている。段差も少なく、歩行不安定なご利用者様にも安全で過ごしやすいつくりとなっている。玄関には、長椅子を置き、そこに座って休憩したり、履物を履いたり脱いだりできる。玄関先には、手すりやスロープがあり高齢者や障害者の方にも配慮されている。その町に合った建物でもあり、違和感や威圧感はない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	優しく感じさせる木を使用した柱、テーブルや椅子、家具などがあり、家庭的な雰囲気作りを目指している。季節感を出すため、その季節の花を飾ったり、カレンダーを飾ったり、ゆず風呂をしたり工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファや椅子、玄関先にはウッドチェアを置き、ご利用者様の思い思いに合わせて過ごせるように居場所作りに努めている。一人で椅子に座っている方もいれば、1つのソファに3人が座られニコニコ笑い、お話ししながら過ごされる光景もみられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し、ご本人様が使い慣れた日用品などを持ち込んでいただき、ご利用者様の居心地のよさに配慮する努力をしている。写真を飾っておられる方、ドアに暖簾をかけておられる方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	大きな窓もあり、換気もこまめに行い、新鮮な空気を室内に取り入れている。温度、湿度調節は温度室温形や不快指数計算表を基本とし、ご利用者様の不快防止に努めている。床暖房も完備している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が出来る限り自立した生活が送れるように環境作りに配慮している。手すりの設置、車椅子の方でもゆったり使用できるトイレの広さや手すりの設置、洗面所ののびる手洗い用のホースも付いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者様の混乱や認識間違いなどを少なくするため、日々、スタッフ同士で話したり検討したりして対応できるよう努力している。居室前に表札を立てたり、おトイレがわからない方のためにドアのお手洗いと目印となるものを貼らしていたりもしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはガーデンテーブルとウッドデッキがあり、いつでも外へ出て日向ぼっこをしたり涼んだりできるようにしている。ときには、そこでおやつやお茶をしたりして気分転換できる場となっている。また、洗濯物をご利用者様と一緒に干せるスペースがあったり、敷地内に小さな畑があり、ご利用者様に監督していただき、さつまいもの栽培をしたりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームの理念1、ゆっくり、楽しくよりそって暮らせる家を目指します。2. 自分でやれる喜びと達成感のある暮らしを目指します。3. ご利用者様、ご家族様